

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	つくば市福祉支援センターくきざき			
○保護者評価実施期間	令和7（2025）年1月21日		～	令和7（2025）年2月21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23家庭	(回答者数)	14家庭
○従業者評価実施期間	令和7（2025）年1月21日		～	令和7（2025）年2月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7（2025）年3月12日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・親子通所なので、お子様の集団の中での姿を保護者様と一緒に確認できる。	・療育の小集団でのお子様の様子を保護者様と共有し、お子様の発達段階や課題について確認している。お子様にあった声掛けや働きかけ、対応の仕方など一緒に考えている。	・家庭や通所園での様子なども踏まえ、より過ごしやすくするために家庭や園での工夫点なども一緒に考えたり、保護者様との面談の中でお子様の理解がより深まるよう、丁寧に説明していく。
2	・多職種（ST.OT.PT）の視点でお子様の発達段階をとらえ、アドレスできる。	・職員間でお子様の行動の背景や理由について専門的な視点から多色的にとらえ、共通理解を図るよう努めている。保護者様向けの学習会を（ST.OT年に2回ずつ）開き、お子様理解に繋がる機会を提供している。	・職員の専門性を高めるための研修を行い、療育で活かせるようにする。
3	・関係機関連携で年に2～3回お子様の所属園に訪問している。（3歳以上児）	・保護者様から園生活での心配事等を事前にお伺いし、見学後その視点で報告を行っている。お子様の主となる集団の中での困り感や頑張りについて観察し、園の先生と情報共有するよう取り組んでいる。	・こちらからの訪問だけでなく、園からの見学及び電話での相談など、多様な形で連携を模索する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者様同士の交流の場面や親の会の活動支援少なくなっている。	・コロナ禍により親の会の活動が縮小させたことや、療育の行事や開催日数の減少により、保護者様同士の交流機会が減っている現状がある。	・療育の活動の中で、保護者様同士の交流を促すような機会を意図的に設けるようにする。（懇談会・勉強会等）
2	・施設の老朽化により、お子様の活動に合わせた環境にすることが難しい。	・建物は築37年であり、加えて他事業との複合施設であるため、専門スペースが狭く、利用者様にはご不便をおかけしている状況。	・適宜点検や修繕を行い、できるだけ利便性を高めるよう努めるとともに、お子様の状況に合わせた環境作り（刺激の調整・構造化）に努めていきます。
3	・避難訓練の周知が不十分。	・避難訓練は行っており備蓄品もあるが、複合施設で避難訓練の時間の調整が難しい。	・全体に避難場所を周知（オリエンテーション時、おたより等で）したり、各曜日で実際に避難訓練を行う。